

## 車椅子バスケット

### 1 概要

車椅子バスケットのルールは一般のバスケットボールのルールと類似していることから、障がいのない児童生徒もすぐに競技に参加できる障がい者スポーツです。

車椅子バスケットの体験を通して、障がいのない児童生徒は、車椅子をコントロールすることの難しさを体験し、障がいについての理解を深めるとともに、車椅子バスケットボールの魅力を実感することができます。

### 2 体験会の準備

- 競技用車椅子 2セット  
(通常の車椅子で代用可)
- バスケットボール 2個
- 6人～8人のグループ分け

### 3 所要時間

- 1時間～1時間半程度

### 4 体験会の流れ

#### ① 準備体操

- ・車椅子を使用する児童生徒は、上半身を中心にストレッチする。

#### ② 車椅子での移動練習

#### ③ ドリブル練習

#### ④ ミニゲーム

- ・2チームに分かれ、1人1回ずつシュートし、チームの合計の得点を競う。

#### ⑤ 振り返り

「障がい者トップアスリートの人たちの、車椅子をぶつけ合う音があんなにすごいとは思わなかった」

「車椅子を動かすだけでも大変で、ボールをもらってもどうしていいかわからなかった」



ミニゲーム

車椅子に乗ると、力の入れ方が全然違って難しい！



障がい者トップアスリートによるデモンストレーション

### モデル校からのアドバイス

車椅子に慣れない児童生徒の場合は、急に激しい動きをすることで、転倒してケガをしてしまうことも考えられます。

短時間で体験会を実施する場合は、例のように基本練習やミニゲームを工夫することが大切です。

## 障がい者スポーツを通じた交流及び共同学習実施校一覧

障がい者スポーツを通じた交流及び共同学習に関心のある学校は、実施の内容や方法、障がいのある人とのかわり方などについて、下記の特別支援学校に相談することができます。

管内	学校名	競技種目
空知	岩見沢高等養護学校	フロアカーリング
石狩	札幌視覚支援学校	ブラインドサッカー
後志	高等聾学校	車椅子バスケット
胆振	室蘭養護学校	フロアカーリング
日高	平取養護学校	フロアカーリング
渡島	函館養護学校	フロアカーリング
檜山	今金高等養護学校	ブラインドサッカー
上川	旭川盲学校	ブラインドサッカー
留萌	小平高等養護学校	フロアカーリング
宗谷	稚内養護学校	フロアカーリング
オホーツク	網走養護学校	車椅子バスケット
十勝	帯広盲学校	ブラインドサッカー
釧路	白糠養護学校	フロアカーリング
根室	中標津高等養護学校	ブラインドサッカー

### 障がい者スポーツ推進団体

NPO法人セカンドサポート <http://second-support.org/>

本事業で御協力いただいたNPO法人です。障がい者スポーツのイベント開催や講師の派遣、野球、サッカー、テニス等のトップアスリートの講師やコーチの派遣等を行っています。

各学校で障がい者スポーツを通じた交流及び共同学習を実施する際、協力を依頼することができます。

### 交流及び共同学習の指導資料

◇ 交流及び共同学習に関する資料「交流及び共同学習を進めるために」や事前・事後学習用「交流及び共同学習を行うに当たって(例)」を北海道教育委員会(特別支援教育課)のWebページに掲載しています。

「北海道『東京オリンピック・パラリンピック』プロジェクト」(北のTOPプロジェクト)

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/ssa/northtop.htm>

北のTOPプロジェクトでは、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に伴う波及効果を本道の経済活性化や地域振興に結び付けるため、庁内関係部局の連携により、効果的な情報の収集・共有及び関連施策の総合的な推進を図ることを目的として活動しています。

本資料は、北海道教育委員会(特別支援教育課)のWebページに掲載しています。

<http://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/tkk/>

文部科学省委託事業 平成27・28年度「インクルーシブ教育システム構築モデル事業(学校における交流及び共同学習を通じた障害者理解(心のバリアフリー)の推進)」

## 障がい者スポーツを通じた相互理解 ～事業実践事例集～



車椅子バスケットボール



障がい者スポーツについての教職員研修



フロアカーリング



ブラインドサッカー

### ■ 本事業のねらい

本事業は、障がいのある児童生徒と障がいのない児童生徒が共に障がい者スポーツを行うことや、障がい者トップアスリートの体験談を聞くことなど、障がい者スポーツを通じた交流及び共同学習を実施し、障がいに対する理解啓発及び障がいのある児童生徒の社会参加への意欲を高めることを目的とした文部科学省委託事業です。

本道においては、平成27・28年度の2年間でブラインドサッカーや車椅子バスケットボール、フロアカーリングなど障がい者スポーツを通じた交流及び共同学習を進めてきました。

本リーフレットをお読みいただき、今後の各学校における交流及び共同学習の充実を図る際の参考としてください。

平成29年3月  
北海道教育委員会

## 障がい者スポーツを通じた交流及び共同学習を実施する際のポイント

### 準備

交流及び共同学習の準備を行う際は、学校間の日程調整はもとより、体験会の目的やねらいについて共通理解し、互いの教育課程に位置付けることが大切です。

- 特別支援学校
  - ・管理職、学部主事及び担当教員が中心となり、体験会の日程や内容等について検討し、障がい者スポーツを推進する団体と交流校に計画を打診します。
- 小・中学校、高等学校
  - ・管理職及び担当教員が中心となり、交流先の特別支援学校と、日程や内容等について確認します。
  - ・交流及び共同学習について教育課程に位置付けるとともに、指導計画を作成します。
- 障がい者スポーツを推進する団体
  - ・特別支援学校や障がい者アスリートと日程や内容等の調整をします。

### 事前指導

交流及び共同学習を行う際は、各学校がアンケートを実施するなどして、児童生徒が自分の気持ちや捉え方の変化に気付くように指導を行うことが大切です。

### 実施

安全かつ効果的に交流及び共同学習を進めるためには、事前に学習指導案を作成し、①障がい者アスリートの活躍の場、②ルールの変更や児童生徒の動線などを明確にした上で児童生徒の障がいの状態や発達の段階に応じた取組を行うことが大切です。

### 事後

事後に実施したアンケートでは、当初は障がいのある児童生徒とかかわることに戸惑いを感じていた児童生徒の捉え方が、障がい者スポーツを通じて、「障がいのある児童生徒とコミュニケーションを図ることができた喜びを感じた」などと変化したことについて事後指導で取り上げたり、学校だよりで保護者に成果の周知を図ったりすることが大切です。

事前・事後学習用「交流及び共同学習」を行うに当たって（例）  
小・中学校、高等学校用アンケート

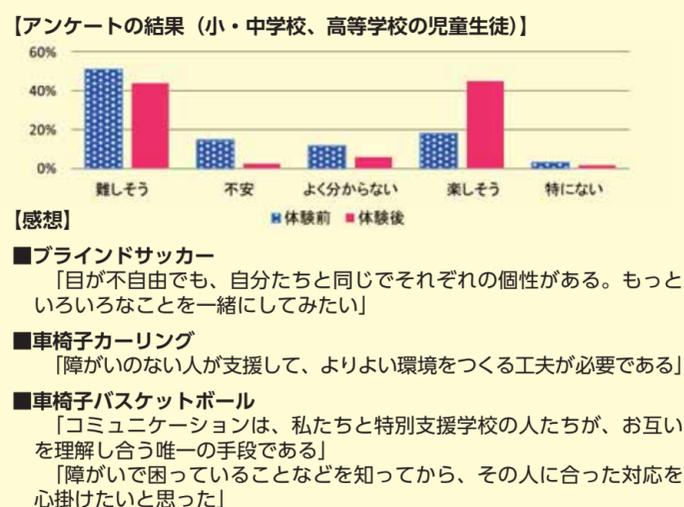
事前に記入しましょう。

障がい者スポーツに興味はありますか	ア ある	イ どちらともいえない	ウ ない		
これまでに障がい者スポーツを視聴したことはありますか（テレビ等を含む）	ア ある	イ ない			
障がい者スポーツを体験する前に感じていることを1つ選んでください	ア 難しそう	イ 不安	ウ よく分からない	エ 楽しそう	オ 特にない
特別支援学校の幼児児童生徒について、事前に知っていることをお書きください【記述式】					

※事前アンケートと同じ内容で事後も実施し、比較する。

心のバリアフリー推進事業トップアスリートによる講演・体験 スケジュール

時刻	高等部 生徒の活動	〇〇高校 生徒の活動	指導上の留意点	講師の先生
9:50	・体育館入場、整列 ①説明を聞く ②説明を聞く ・フットボール体験開始	・体育館入場、整列 ①説明を聞く ②説明を聞く ・フットボール体験開始 ●ルールの変更等、特別支援学校の生徒を支援することを中心にお願いします。	・司会進行 はじまりの挨拶 講師の先生の紹介 ③ルールの変更 ●特別支援学校の生徒の実態に合わせた加減の仕方について生徒間で話し合い、新しいルール設定を行う。 【例】用の近くはポイントを多めにする ・観戦のスタートは必ず追加する	・体育館へ移動します。 ①障がい者アスリートの活躍の場 ◆競技方法、ルールを説明する。 ◆デモンストレーションを行う。 ○デモンストレーション、競技の時間配分は講師の先生の取り組みやすい方法で実施する。
11:40	・フットボール体験終了 ・学級へ移動			
11:55	・給食準備			
12:55	・昼休み終了			



## ブラインドサッカー

- 1 概要  
ブラインドサッカーは、目隠しをした状態で競技することから、障がいによる困難さを体験しやすい競技です。障がいのない児童生徒にとっては、見えない状態を体験することでコミュニケーションをとることの重要性を実感しやすいなど、障がいについての理解を深めることができます。
- 2 体験会の準備
  - 鈴入りボール5～6個
  - 6人～8人のグループ分け
  - アイマスク（人数分）  
（手ぬぐい等で代用可）
- 3 所要時間
  - 1時間～1時間半程度
- 4 体験会の流れ
  - ① グループ分け
    - ・自己紹介し、アイマスクをする人と声をかける人を決める。
  - ② 目隠し体操
    - ・教師が行っている体操の動きをアイマスクをしている人にできるだけ分かりやすい言葉で教えるよう工夫する。
  - ③ ランニング
    - ・声のする方に向かってアイマスクをしたままで走る。
  - ④ ドリブル・パス
    - ・ランニングと同じ要領で、パスやドリブルを行う。
  - ⑤ シュート
    - ・声をかける人は、ゴール裏から距離や方向を伝え、アイマスクをした人は、その声を頼りにシュートする。
  - ⑥ ミニゲーム
    - ・2チームに分かれ、的となる相手の股の下にボールを通した回数を競う。
  - ⑦ 振り返り  
「アイマスクをすると、どこに何があるか分からなくて、歩くのも大変だった」  
「見えない人に、言葉だけでやり方を伝えるのはとても難しかった」

### モデル校からのアドバイス

アイマスクをすると、どこに何があるか分からず、怖さを感じたり、転倒してケガをしたりしてしまうことも考えられます。  
短期間で体験会を実施する場合は例のように基本練習やミニゲームを工夫することが大切です。



## フロアカーリング

- 1 概要  
フロアカーリングは、身体の動きに不自由さのある方でも楽しめるスポーツであることから、交流及び共同学習の活動として取り組みやすい競技です。障がいのある児童生徒と障がいのない児童生徒が同じチームとなり、作戦を一緒に考えたり、励まし合ったりできるほか、車椅子を利用して人へのかかわり方についての理解を深めることができるスポーツです。
- 2 体験会の準備
  - フロアカーリングセット 2セット
  - デリバリーステッキヤスロープ（車椅子を利用して人へのための補助具）
  - ストーンをデリバリーするハウス（円）
  - 6人～8人のグループ分け
- 3 所要時間
  - 1時間～1時間半程度
- 4 体験会の流れ
  - ① グループ分け
    - ・自己紹介し、グループ内でデリバリーする順番を決める。
  - ② ルール説明
    - ・ハウス（円）の点数の数え方について確認する。
  - ③ 準備体操
    - ・車椅子を使用する児童生徒は、上半身を中心にストレッチする。
  - ④ デリバリー練習
    - ・参加者が順に行う。
  - ⑤ ミニゲーム
    - ・ミニゲームを行い、点数を競う。
  - ⑥ 振り返り  
「車椅子を利用して人と初めて一緒に遊んで楽しかった」  
「初めて車椅子に乗ってみて、急に押されるのがあんなに怖いとは思わなかった」

### モデル校からのアドバイス

グループ分けは、障がいのある児童生徒と障がいのない児童生徒を混合チームとすることが大切です。  
ミニゲームと一緒に行うことで、短時間で仲良くなる様子や、帰り際、名残惜しそうに、声かけ合う様子が見られていました。

